

# Charcas

藤沢の魅力を発信する情報誌チャーカス

★Charcas（チャーカス）はcharm（魅力）とcasket（玉手箱）の造語です

特集 楽style エンジョイスタイル

Vol. 3  
人物編  
Mar.2023



## 【人生を楽しむ人】

まがれっと倶楽部

辻山拓也さん

首藤亜紀さん

千葉和弘さん

FMBA藤沢マーチングバンド

千葉利夫さん

千葉悦子さん

佐々木和重さん

藤沢カマバタ織りの会

北澤与志夫さん



## ●輝いている女性だから、野菜もみんなピッカピカ おそろいの赤いエプロンで元気いっぱい まがれっと俱楽部

「集まる・つながる・楽しむ」ことを目指して2022年5月にマルシェを開催したのは、曲田営農組合（小野寺幸一郎代表理事組合長）の女性たちでつくる「まがれっと俱楽部」。結成のきっかけは「みんなともっと何かしたい」という思いからでした。普段から米や野菜作りをしながら収穫祭ではお弁当、冬には手打ちそばや味噌作りなど、多彩な活動に励んでいますが、もっと多くの人と出会いをこの曲田地区で実現したかったのだといいます。

マルシェは野菜や果物、手作り雑貨の販売、フリーマーケットなどを、岩手サファリパークから花泉方面へ少し向かって、花藤橋手前で毎月1回開催。季節によって販売する野菜は変わりますが、春の曲田だいこん

マルシェは野菜や果物、手作り雑貨の販売、フリーマーケットなどを、岩手サファリパークから花泉方面へ少し向かって、花藤橋手前で毎月1回開催。季節によつて販売する野菜は変わりますが、春の曲田だいこん

から始まり、人参、ごぼう、ネギや葉物、西洋野菜など新鮮で安価なのが魅力です。雑貨では、可愛らしいタオルドレスやおしゃれなクラフトバッグ、マスクストラップなど手作り感満載。フリーマーケットでは寝具類といった日用品なども販売しています。

俱楽部の皆さんには、慣れないレジの操作やラップペグの工夫、在庫管理の難しさなど毎回勉強しながら仲間と集まって何かができる楽しさを実感し、そしてマルシェに来てくれるお客様との会話が楽しいと話します。また、今作っている味噌は、曲田地区全体の健康長寿につなげていくことが目標とも。これからも「自分たちの可能な範囲でマルシェを継続できるように頑張っていただき」と、明るい笑顔で話してくれました。



新鮮な野菜がたくさん



フリーマーケットの様子



手作り雑貨の商品



曲田営農組合生産者



だいこん祭りも開催



接客も大忙し





辻山拓也さん



地域のイベントで紹介

QRコード  
QRコードを読み取ると  
辻山拓也さんのインタビューア動画をご覧になれます。



## ●若手ハンター 期待の星☆

### 東磐獵友会藤沢支部

### 辻山拓也さん

全国的にも、シカやイノシシの農作物・人的被害は年々増加傾向にあり、藤沢町も例外ではありません。大籠地区や黄海地区ではイノシシ出没が多いとされますが、シカはより多く生息しているといいます。

その駆除をしている辻山さんは、全国的な問題として担心不足が叫ばれる中、若手が多い現在約30名のハンターが在籍する東磐獵友会藤沢支部の中心的メンバー。月1回ほど有害鳥獣駆除に取り組んでいます。また、岩手県獵友会の青年部長も務めています。

小学生の頃にハンターをしていました。父と一緒に山へ出掛け、狩猟に興味を持ったのがきっかけで、この道に進むようになりました。

東日本大震災復興支援の仕事をする傍ら、休みの日にはハンターとして地元藤沢町をはじめ、一関市内や遠野市で有害鳥獣駆除に取り組む辻山拓也さん。

小学生の頃にハンターをしていました。父と一緒に山へ出掛け、狩猟に興味を持ったのがきっかけで、この道に進むようになりました。

東日本大震災復興支援の仕事をする傍ら、休みの日にはハンターとして地元藤沢町をはじめ、一関市内や遠野市で有害鳥獣駆除に取り組む辻山拓也さん。

東日本大震災復興支援の仕事をする傍ら、休みの日にはハンターとして地元藤沢町をはじめ、一関市内や遠野市で有害鳥獣駆除に取り組む辻山拓也さん。

年2回の射撃講習会、これから狩猟を始める人を対象とした扱い手育成会などの活動もしています。

初めて散弾銃を所持したのは26歳の時。100kg超えの鹿を一発で仕留めた時は「震えがきた」といいますが、うれしかった気持ちもあったと話してくれました。

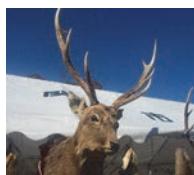
ハンターとしての喜びは、有害鳥獣駆除をした地域の人たちから掛けられる「ありがとうございます」との言葉だといいます。

これを励みに、狩猟経験が豊富なベテランハンターから確かな技術を習得して、シカやイノシシを少しでも多く駆除できるようになります。

して「情報発信もしながら狩猟の魅力に興味を持つもらい、若手の育成にもつながるよう力を注いでいきたい」と、期待の若手ハンターは爽やかな笑顔で話してくれました。



仕留めた動物の剥製



3~4kgある散弾銃





- 可愛がりだけが愛情じゃない 大事なのは信頼関係  
ドッグトレーナー 首藤 亜紀さん

ある日のCATVの番組収録では、チャウチャウが出演していました。がつりとした体格に可愛らしい顔立ちで、家族以外には警戒心が強いといわれるチャウチャウですが、飼い主さんがの指示をよく聞き、司会者の差し出すおやつには目

しつけ教室の他に、年1回開催しているペットの運動会や地元のケーブルテレビ（CATV）の番組にも出演するなど多忙な日々を送っています。

暮らしており「頼りになる存在」と目を細めます。これまで数多くの犬への指導・訓練をしながら飼い主へのアドバイスも行ってきました。

犬のしつけ教室「DOG SCHOOL SHUTO」を開いている首藤亞紀さんは、幼い頃から犬と生活を共にしてきました。現在も保護犬のシェバードと一緒に暮らしています。

緒に逃げる会（避難所）の代表も務めています。

「これからも資格を生かして、飼い主と犬とが適切な関係を築いていけるように指導・訓練を心掛け、この仕事を大切に続けていきたい」と気持ちを新たにしています。

日本警察犬協会（JC）、日本愛犬飼育管理士（KC）の公認訓練士のほか、愛犬飼育管理士やペットトレーナーの資格を持つています。また、「ペット」と

首藤さんは、(社)P.D.(構築できると話します。) ん。自宅あるいは庭で飼える体格か、性格はどうかなどを見極めることで、犬たちも飼い主と幸せな関係を構築できると話します。

もくれず、お友達の犬と元気いっぱいに走り回っていました。



首藤西紀さん



かわいい看板がお出迎え



ねえ、遊ぼうよ！



あっちがいいな



## おやつちょうだい

Charcas 3



## ●地元藤沢の魅力を世界へ発信 里山ジャパン共同代表 千葉 和弘さん



千葉 和弘さん



木工作品作業室「木心」

### QRコード

QRコードを読み取ると  
千葉和弘さんのインタ  
ビュー動画をご覧にな  
れます。



千葉さんは若い頃、都会に憧れて古里を離れました。そこで「地元のために何か活動しよう」と思い、2019年（平成最後の年）4月に地元の仲間5～6人と始めたのが、藤沢町の名峰保呂羽山頂にある保呂羽神社の清掃活動でした。これが「里山ジャパン」の誕生です。綺麗に清掃した神社で「気の合う仲間と美味しいコーヒーを飲むのは至福の時間だ」と目を細めます。以来、清掃活動以外にも春には山菜採りや「宮沢賢治ゆかりの陸羽132号」の米栽培、夏にはホタル観賞会、秋には裏山でツルや枝を拾つてのリース作り、冬は暖かい新ストーブを因

しむなど、「子供とシニアの遊び場作り」をコンセプトに活動をしています。そんな様子を自身のSNSで発信すると、200人以上の人々がこの地を訪れるようになりました。海外からの仲間も日本の里山の風景や風習がとても魅力的に感じるそうです。里山ジャパンでは会費や会則、入退会といった手続はなく、自分の都合のいいときに参加出来るのが魅力だと話します。

「十年後にもこの里山に何か良いものをつないでいけるように、そしてこの風景を残していくよう、これからも里山ジャパンでできる事をやっていきたい」と笑顔で話す千葉さんでした。



徳田ひまわり畑



棚田で田植えを体験



離れの宿泊部屋



## ●子供たちは音符奏でるのは幸せのハーモニー FMBA藤沢マーチングバンド

藤沢町でマーチングが盛んだったという意味を持つ藤沢マーチング・バンド・アンシェリション(FMBA)。藤沢町の活動も衰退し、少子化と指導者の不在から活動の継続が難しくなってきました。そこで父兄の中から指導者をと、中学校で吹奏楽部の指導経験のある千葉麻里さんに依頼することにしました。千葉さん自身も学生時代マーチングバンドに取り組んでできたので、「頑張っていこう」と決意したといい、小・中学生合同によるマーチングの指導を始めました。以来約10年、現在は小学生から大人まで30名ほどが在籍しています。マーチングバンドの活動は4月からさまざまな種類

である樂器の振り分け、練習、8月には藤沢野焼き祭での演奏。この時には帰省してきたOBたちも一緒に演奏することもあるといいます。さらに秋には文化祭でも演奏するなど、精力的に活動しています。

2022年度に部長を務めた、畠山心奈(ここな)さん。お姉さんたちと一緒に始めて、小学4年生からユーフォニアム担当しています。「これからいろいろな曲を吹けるよう頑張りたい」と話してくれました。音楽に興味のある人、マーチングバンドに興味がある人など、FMBAで一緒に活動してみませんか。お待ちしています。



ステージ発表をするFMBA藤沢マーチングバンドのメンバー



千葉 麻里さん



畠山 心奈さん

QRコード  
QRコードを読み取ると  
FMBA藤沢マーチングバンドさんのインタビュー  
動画をご覧になれます。





## ●セカンドライフ満喫 ポポーと実りある人生謳歌 千葉 利夫さん



千葉 利夫さん



愛車とお手製のイス

QRコード  
QRコードを読み取ると  
千葉利夫さんのインタビュー動画をご覧になれます。



若い頃から多くの趣味を持つ千葉利夫さん。自宅を建築した際に工務店が作ってくれたステンドグラスが趣味の一つに加わり、本格的に学ぶべく1年半前から仙台市のカルチャースクールに通いながら腕を磨いています。この他にも木の枝を利用した「肘掛け付きのイス」や、クリの木で作った「ナマズ」など表情豊かな作品を手掛けています。

作品を見られるのは、山小屋風の外観に薪ストーブの煙突が目印の「一心亭」です。ここは千葉さんの作業場兼展示コーナーで、地域の皆さんのがいの場にもなっています。

作品を制作する傍ら自治会活動にも積極的な千葉さんは元郵便局員。行政区長をはじめ多くの役を担つており、毎月の広報や区長によりなどは、相棒の「赤い

スパーーカブ」で配達しています。所有する広大な土地にはリンゴやカキ、ナシの他に市場には滅多に出回らないポポーなど、17種類を栽培している果樹園があり、中央のクリの木の下には可愛いお孫さんのために作ったお手製の白いプランコがあります。

自宅の横には千松川が流れおり、アジサイやウメの花木は季節ごとに色鮮やかな花を咲かせます。秋にはクリ拾いや芋煮会などをして地域の方やお孫さん職場の同僚たくさんの人と楽しい時間を過ごすそうです。

これからも「この地で好きなものを作り、地域の皆さんと一緒に楽しみながら生活していきたい」と語ってくださいました。



ステンドグラスの作品が並ぶ



甘い香りのポポー



みんなの憩いの場「一心亭」



## ● 薫る人生に魅せられて ハーブサークル・藤沢 千葉 悅子さん

ハーブは薬草や料理、香料、保存料として用いられる植物ですが、そのハーブを暮らしに利用できるように活動するハーブサークル・藤沢代表の千葉悦子さんは「植物を育てるのが楽しみ」と語り、種から苗を育て株分けをしているハーブが数種類あり、月1回の活動にも使っているといいます。

ある活動日はさまざまなハーブを使って壁飾りを制作中。指導する長尾美恵子さんが見守る中、自身のセンスを發揮しました。

毎月テーマを決めて活動しているサークルではハーブティーをはじめ料理や藍染め、アロマクリーム、クレヨンを使った蠟燭作りなど、日々の生活に取り入れられる簡単なものを制作し

ます。千葉悦子さんは「ハーブの活動日はさまざまなハーブを使つて壁飾りを制作中。指導する長尾美恵子さんが見守る中、自身のセンスを發揮しました。またサークルでは新メンバーを募集しています。

「ハーブに興味のある方、ハーブについて勉強したい方など、新しい仲間と一緒に活動できたらうれしいですね」と、優しい笑顔で話



千葉 悅子さん



ポイントを教わる



ハーブでアイピロー や スタッグ



藍染めのスカーフやリースなどたくさんの作品が並ぶ



QRコード  
QRコードを読み取ると  
千葉悦子さんのインタビュー動画をご覧になれます。





佐々木 和重さん



鍔を材料にした風鈴

## ●キリストの里祈りの炎鉄となる 大籠たたら製鉄 佐々木 和重さん

佐々木和重さんは、原料の準備から炉の組立て、鍋（ケラ）の取り出しまでの工程を率先して行っています。

原料となる砂鉄は夏頃に採取し、不純物を取り除くために磁石を使って選別します。その後砂鉄をふるいにかけ、大きさを一定にして使います。また燃料となる炭は地元大籠の物を使っています。

火炉は毎年作り、内側は耐火レンガ、外側はブロックで囲み崩れないよう針金で

純度の高い鉄を取り出す製鉄法。大籠たたら製鉄とキリストん殉教史跡保存会では、2017年からこの方法での鉄作りに挑戦しています。

佐々木和重さんは、原料の準備から炉の組立て、鍋（ケラ）の取り出しまでの工程を率先して行っています。

原料となる砂鉄は夏頃に採取し、不純物を取り除くために磁石を使って選別します。その後砂鉄をふるいにかけ、大きさを一定にして使います。また燃料となる炭は地元大籠の物を使っています。

火炉は毎年作り、内側は耐火レンガ、外側はブロックで囲み崩れないよう針金で

固定し、その隙間に玉砂利を詰めます。半日ほどで出来上がり、22年は空気の通り口を2カ所にし、炉の高さを例年より高く改良しました。2日がかりで行われたたら製鉄は、前日から炉を暖め、翌日に少しずつ炉を解体して鍋を取り出します。炉の中は1300度以上になり、耐火手袋をしても熱く、熱風も浴びるため作業は慎重を極めます。

鍋は赤な塊を水で冷やし、ノロ（不純物）を取り除くと鍋が姿を現します。この年はこの鍋を材料に風鈴も制作しました。佐々木さんは「どんな音色を響かせてくれるか楽しみ」と話していました。

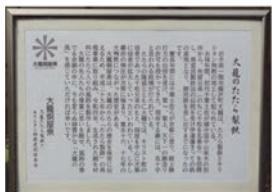
これからもいろいろな事を試したい思いがあり、その一つが炉の改良だといいます。「より多くの鉄を取り出す工夫を仲間と楽しみながら考えていきたい」とほほ笑んでくれました。



たたら製鉄で生成されたケラ



会場では神楽を披露



大籠のたたら製鉄

QRコード  
QRコードを読み取ると  
佐々木和重さんのイン  
タビュー動画をご覧に  
なれます。





## ●伝統を織りなし、後世に継ぐ 藤沢カマバタ織りの会

藤沢をはじめとする旧東磐井では昔から養蚕が盛ん。住民は繭から糸を取り、染め上げ、着物に仕立てる自給自足の生活をしてきました。さらにその着物を最後まで大切に使おうと、機織り機で織っていたのが裂き織りです。

かつては冬の閑散期に機織り愛好家だけで織っていましたが、1995年に岩手県からの補助を受け、正式に藤沢カマバタ織りの会として活動をスタートさせました。千厩町や大東町に仲間がいて、お互いに情報交換をしながら友好関係を深めてきました。

伝統的な裂き織りを現代に活用しようと活動している藤沢カマバタ織りの会。8名のメンバーを指導するのは秋田睦美さんです。

不要な切れや布を作品に

みていかがでしょか。皆さんもぜひ手に取ってみてはいかがでしょか。

時間を受け、労力を惜しまず、ただ「ひたすらに織物が好き」という情熱で丁寧に作られる。多種多様な織り方や配色の組み合わせで、その仕上がりが変化するのも楽しみの一つといいます。

仕上がった時にはほつれないよう、ハサミなどでは切らずに丁寧に布を裂いていき、小物入れやペンケース、財布にバッグ、ポシェット、リュック、洋服などの作品に生まれ変わらせます。

作品作りの他に、地元高校生にも機織りの糸の張り方などを指導してきました。「伝統を守り、伝える事は簡単ではないけれど少しでも機織りに興味を持つてもらえたならうれしい」と話すメンバーたち。



リズム良く織り上げる



バッグやポーチ、ジャケットと作品も豊富



秋田睦美さん



笑顔が素敵なメンバー

QRコード  
QRコードを読み取ると藤沢カマバタ織りの会さんのインタビュー動画をご覧になれます。





北澤 与志夫さん

## ●瑞々と衡かなる人生 瑞衡窯 窯元 北澤 与志夫さん

北澤与志夫さんは15歳の時に、父親が他界したのをきっかけにもの作りで生計を立てようと高校卒業と一緒に、人間国宝富本憲吉氏の内弟子、松山祐利氏に師事。美濃焼・信楽焼・織部焼など、焼き物の基礎を学びました。

友人も美術館などを巡り研鑽を積みました。その後、学んだ技術を生かし、1983年に平泉町の中尊寺に茶碗を奉納しました。寺に茶碗を奉納しました。やがて本格的に作品作りができる場所を求め、藤沢が町大籠で陶芸活動を始めました。大籠の土に惚れ込み、釉薬なども自身で作って、作品に使用するといった工夫を凝らして「大籠焼」を誕生させました。

北澤の作業場には制作中の作品が数多くあり、長い時間をかけて土と向き合いました。



瑞衡窯

### QRコード

QRコードを読み取ると北澤与志夫さんのインタビュー動画をご覧になれます。



い、自身が思い描く逸品に仕上がるよう丁寧な作業で焼き上げていきます。完成した作品は自宅の一室に展示されています。茶碗や大皿、花生け、茶道具など、北澤さんの思いが一つ一つ込められ、焼き色を見ても趣を感じられるものばかりです。

隣町では、陶芸教室も開き多くの生徒に自身の技術を教えるなど、忙しい日々を送っています。

また、将来はこの場所をいろいろな創作活動をする人に提供できればと考えているそうです。「陶芸にこだわらず、自由に伸び伸びと使ってくれれば」と、穏やかな表情で語ってくれた北澤さんでした。

今後の作品がとても楽しみです。



## 編集後記

「チャーカス」人物編

発刊に当たって

藤沢町住民自治協議会  
会長 千田 博

藤沢町住民自治協議会事業部会が藤沢地域の魅力を発信する「Chacás」を発行し、3年目となる今回は「人物」をテーマに取り上げました。

人口減少に伴う過疎化の波にある藤沢地域で、楽しむことを第一に魅力ある生活を送っている人達を紹介しています。

地域ぐるは人ぐる、人生を楽しんでいる皆さんを通じ、その一助にしていただけたら幸いです。